

(明治二年)  
右巳三月二十日被仰出也。

覺

一、居屋敷・下屋敷不足分、或替屋敷被下刻、不依誰々御看等献上仕候儀、向後無用之旨被仰出候。以上。

寛文六年七月六日

二七 七十歳以上御番之儀御定

七十以上之面々御番御赦免之儀御意次第可申渡候條、向後被得其意、寄合所迄書付御上可有之候。以上。

寛文二年十二月朔日

奥村 河内

組 頭 中

御馬廻組之面々歳七十以上御番被成御赦免候者共、せがれ二十歳罷成、前髪をも取、御番可相勤器量に候ば、向後二十歳より代番可被仰付旨御意候條、可被得其意候。以上。

延寶二年五月廿七日

二八 遺書認様之儀御定

組頭或裁許人より死去人之遺書上之申節、唯今迄は其せがれ、一門縁者書上之申候。向後は死去人之一門縁者書顯可申候。せがれ近き縁者は別卦に相調可上之旨、前田佐渡殿被仰渡候。以上。

(貞享三年)  
七月十七日

二九 侍中子共由緒帳に記載之儀御定

御家中侍中之子供、由緒帳に洩候者有之間敷候へども、萬一隠置、以後相知候は、可爲曲言候。相違之儀有之候ば、其頭・支配人等御懸可被成候。自然急度難申顯品有之候ば、其趣頭迄内々を以相達、頭より達御内聽候得ば宜旨被仰出候。以上。

(元禄三年)  
庚午七月十一日

右御紙面前田佐渡被申渡、頭々可申談候。急度相觸候儀に而は無之候旨之事。

三〇 茶磨山之儀等御定

覺

一、御城より見え候通茶磨山にて、暮張候儀無用之事。

一、茶磨山にて鐵炮放候事。

一、御城より二里四方にて夜中火矢打申事。但、宮腰・大野濱之儀は格別之事。

右御停止被仰出候條可被得其意候。

一、如跡々晝夜廻り番御小將被出候間、最前被仰出候御法度之趣、下々急度被申付候様、是又御組中可被仰觸候。以上。

寛文五年三月廿八日

津田 源右衛門  
中川 八郎右衛門

三一 拜借銀有之面々鷹停止之儀御觸

一、拜借之面々鷹所持有之間敷事。

右跡々より御停止に被仰付候所に、頃日は猥有之由、百姓

三二 親族大病之節看病引之儀

御觸

覺

一、祖父母・双親并妻女大切之煩有之節は、其趣を達組頭、御番を引可遂看病事。

一、兄・姉急病之刻、年闌候せがれ於無之は、弟之内一人御番を引可遂看病事。

一、子并弟・妹・伯父・伯母・甥・姪・從弟・親類縁者大病之節、可致看病もの無之においては、其品を組頭へ斷、御番を引可遂療養事。

右被仰出者也。

寛文六年九月廿八日